

## 2020年5月期 第3四半期 決算概要

- 売上高は、エキスパートサービスは減収となったが、BPO サービスやアウトソーシングが伸長し、239,348 百万円（前年同期比 △1.6%）
- 売上総利益は、BPO サービスやアウトソーシング、人材紹介事業の増収効果に加え、エキスパートサービスの粗利率改善もあり 55,631 百万円（同+2.6%）
- 販管費は、東京オリンピック・パラリンピックの関連費用や地方創生事業における新規施設の初期費用により増加したが、オペレーションの効率化によるコスト抑制を進めた結果、営業利益は 5,856 百万円（同+0.5%）
- 第1四半期に子会社株式の一部売却に伴う支払手数料を営業外費用に計上したことから、経常利益は 5,554 百万円（同△1.1%）  
第2四半期には、子会社の固定資産の一部について減損損失を計上したこと等から、親会社株主に帰属する四半期純利益は 568 百万円（同△38.1%）

### 1. 第3四半期連結業績（2019年6月1日～2020年2月29日）

（百万円）

	2019年5月期3Q	2020年5月期3Q	増減	増減率
売上高	243,295	239,348	△3,947	△1.6%
売上総利益 (売上比)	54,236 22.3%	55,631 23.2%	+1,394 +1.0pt	+2.6%
販売費及び一般管理費 (売上比)	48,408 19.9%	49,774 20.8%	+1,366 +0.9pt	+2.8%
営業利益 (売上比)	5,827 2.4%	5,856 2.4%	+28 +0.1pt	+0.5%
経常利益 (売上比)	5,618 2.3%	5,554 2.3%	△64 +0.0pt	△1.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (売上比)	917 0.4%	568 0.2%	△349 △0.1pt	△38.1%

### 2. セグメント別連結業績（セグメント間取引消去前）

（百万円）

	売上高	前年同期比		営業損益	前年同期比	
エキスパートサービス（人材派遣）	112,532	△8,101	△6.7%	5,200	+1,176	+29.2%
BPO サービス	72,229	+1,691	+2.4%			
HRコンサルティング、教育・研修、その他	6,219	△699	△10.1%			
グローバルソーシング（海外人材サービス）	5,916	+43	+0.7%	260	△246	△48.7%
キャリアソリューション（人材紹介、再就職支援）	11,271	+248	+2.3%	2,340	△97	△4.0%
アウトソーシング	27,062	+1,911	+7.6%	5,954	+562	+10.4%
ライフソリューション	4,692	+562	+13.6%	149	+17	+13.5%
地方創生ソリューション	2,253	+486	+27.5%	△1,301	△333	-
消去又は全社	△2,828	△90	-	△6,746	△1,049	-
<b>合計</b>	<b>239,348</b>	<b>△3,947</b>	<b>△1.6%</b>	<b>5,856</b>	<b>+28</b>	<b>+0.5%</b>

\* 第1四半期連結会計期間より、「インソーシング」を「BPO サービス」に、「パブリックソリューション」を「地方創生ソリューション」にセグメント名称を変更。

あわせて一部子会社のセグメント区分を変更。また、「グローバルソーシング」の営業利益を個別開示。

前年同期比については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しています。

## 主要セグメントの増減理由

エキスパートサービス	主にメーカー等からの受注は減少傾向にあるが、各種施策で登録者数は拡大。派遣稼働者数は改善基調が続いた。今後は新型コロナウイルスの影響もあり不透明。前期は一部子会社が決算期変更で2ヶ月多く業績計上。
BPOサービス (旧インソーシング)	コンタクトセンターを運営するビーウィズ(株)では、AIを活用した高品質なサービス提供で競争力を高めるとともに、長崎センターを拡張。パブリック分野では、自治体の行政事務代行等が堅調に拡大。
グローバルソーシング	中国・香港で政治・経済情勢の影響が拡大するも、インドネシア(DGS <sup>*1</sup> )やタイ、ベトナム等が引き続き増収。一方、体制強化のための採用・研修等の販管費が増加。為替も影響。
キャリアソリューション	人材紹介事業は経験豊富な専門人材に対する需要は強く、なかでも(株)パソナ顧問ネットワークが大幅に伸長。再就職支援は、前期の大型案件の終了の影響もあり減収。
アウトソーシング	福利厚生事業、ヘルスケア事業を中心に拡大。パーソナル事業は既存協業先でのプロモーション展開や新規協業先との取引開始など再成長に向けた基盤づくりに取り組む。

\*1 PT. Dutagriya Sarana (デュータグリヤ サラナ)

## 3. 財政の状況

(百万円)

	2020年5月期 3Q末	前期末比		増減要因
		増減	増減率	
流動資産	75,689	△4,628	△5.8%	現金及び預金の減少 5,405 百万円、 有形固定資産の増加 1,048 百万円等
固定資産	39,602	+460	+1.2%	
資産合計	115,291	△4,167	△3.5%	
流動負債	54,987	△4,129	△7.0%	買掛金の減少 2,780 百万円、 借入金の減少 4,994 百万円、 流動負債のその他に含まれる未払消費税等の増加 1,395 百万円等
固定負債	18,331	△1,757	△8.7%	
負債合計	73,319	△5,886	△7.4%	
純資産合計	41,972	+1,718	+4.3%	親会社株主に帰属する四半期純利益 568 百万円、 子会社株式の一部売却による増加 5,956 百万円、 子会社による当該子会社自己株式の取得による減少 2,370 百万円、配当金の支払 712 百万円、 非支配株主持分の減少 1,961 百万円等
自己資本比率	27.8%	+4.1pt		

## 4. 2020年5月期(2019年6月1日～2020年5月31日)連結業績予想

新型コロナウイルス感染拡大の収束がまだ見えないなか、各種イベントの延期や企業活動の自粛など、その影響は広がり続けております。これらの影響により、今後、業績予想の修正が必要になった場合には速やかにお知らせします。

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益
2020年5月期 業績予想	344,000	11,000	10,700	2,300
2019年5月期 実績	326,984	9,465	9,237	1,975
前期比増減率	+5.2%	+16.2%	+15.8%	+16.4%

四半期ごとの連結業績およびセグメント別業績データは <https://www.pasonagroup.co.jp/ir/data/quarter.html> に掲載します。

本資料記載の将来に関する記述の部分は資料作成時において当社が各種情報により判断した将来情報であり、その内容を当社として保証するものではありません。予想数字等は今後の経済情勢、市場動向等の変化による不確実性を含有しております。本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際は、投資家ご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。